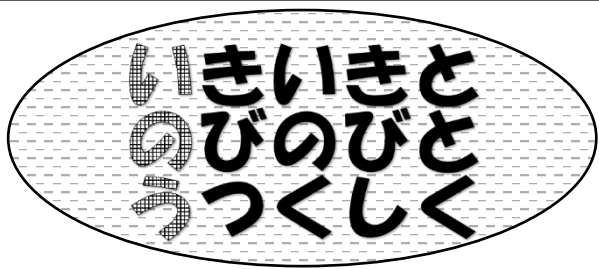


2021

学校だより

学校評価特集号

名古屋市立稲生小学校



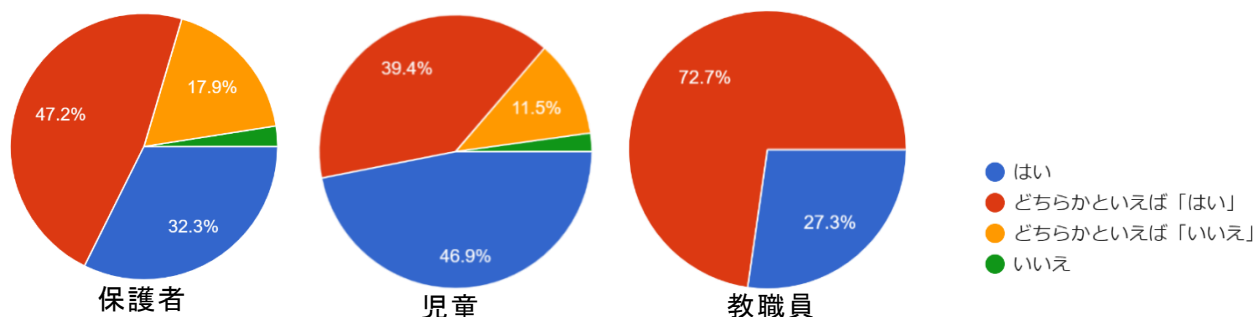
ホームページはこちら



前期学校評価にお取り組みいただき、ありがとうございました。下記のように結果をまとめましたので、お知らせいたします。10月に行われた学校評議員会でのご意見・ご指導も踏まえ、子どもたちの健やかな成長のため、学校として何ができるのかを考えながら、今後も学校運営に努めていきます。

後期の学校評価につきましても、前期同様に、インターネットを通じて行う予定です。どうぞよろしくお願いいたします。

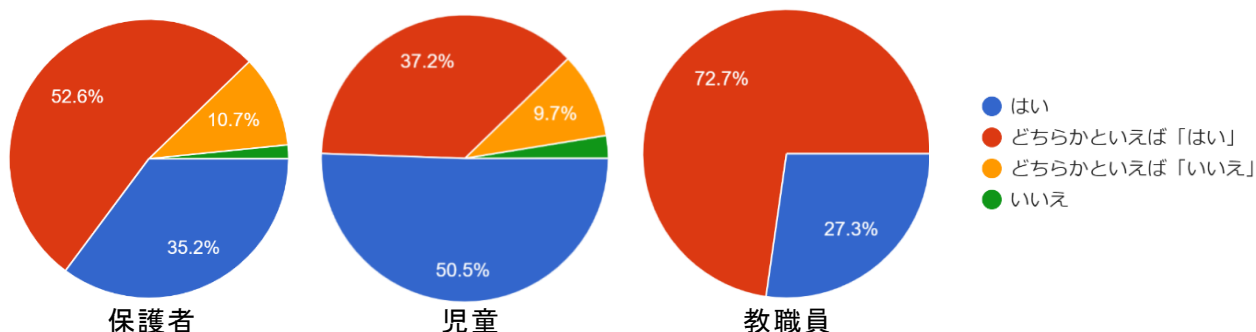
1 お子様は進んで学習に取り組むことができますか。



児童の認識とは違い、保護者の2割がやや否定的な回答となりました。児童の意欲に対して、保護者がイメージしている「我が子が進んで学習に取り組む姿」との差が原因ではないかと考えます。児童は肯定的な回答が多いことから、機会を捉えて日頃の児童の頑張りを丁寧にお伝えてしていく必要があると感じました。

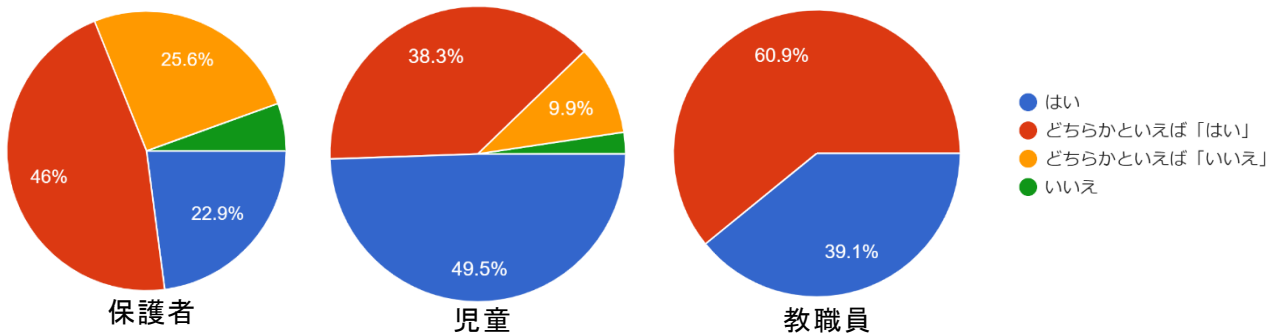


2 お子様は友達と思いや考えを伝え合うことができますか。



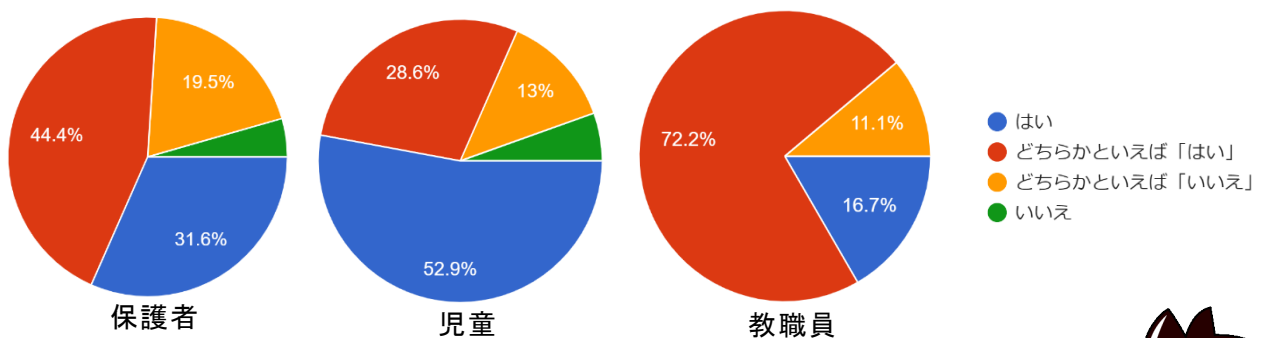
肯定的な回答に対する児童と保護者の割合がほぼ一致しています。しかし、まだ1割程度は対話を苦手とする児童がいます。今後は自分の意見を伝え合う手段を対面での会話だけでなく、タブレット端末等のデジタルを媒介とした様々な会話を通して、児童の苦手意識を払拭していきます。

3 お子様は学習課題を解決するまで、根気強く取り組むことができますか。



保護者の3割強がやや否定的な意見となりました。保護者は家庭での学習態度を評価している一方で、児童は学校での学習態度をイメージし、評価しているのではないかと考えられます。教職員の児童に対する評価も高いことから、学校で取り組む課題と家庭で取り組む課題との質の差が出ないように、課題解決型の家庭学習を進めていきます。

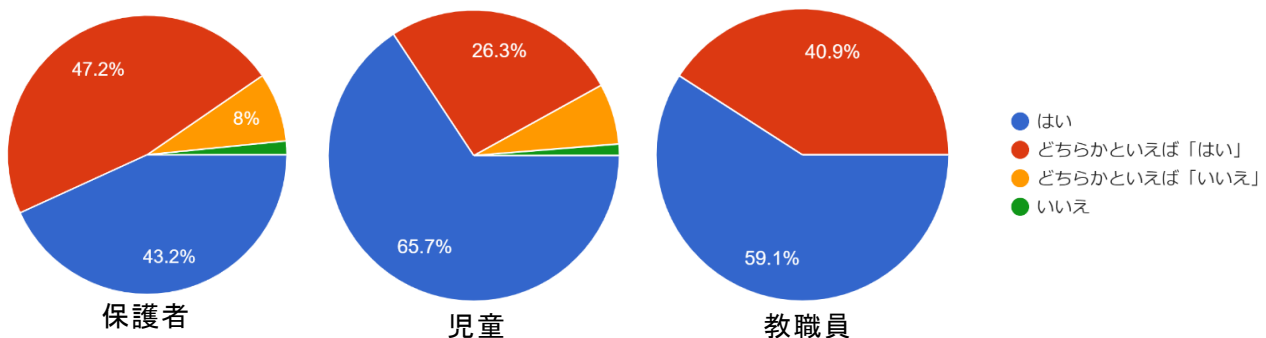
4 お子様は学習課題を達成するために、工夫して運動に取り組むことができますか。



コロナ禍で十分な運動に取り組めず、保護者や児童、教職員とも共通して、否定的な意見が1~2割見られました。リニューアル工事の関係で十分な運動量は確保しにくいのが現状ですが、タブレット端末を活用した体育学習(映像クリップや動画撮影機能の活用など)を進めることで、児童が工夫して運動に取り組めるようにしていきます。

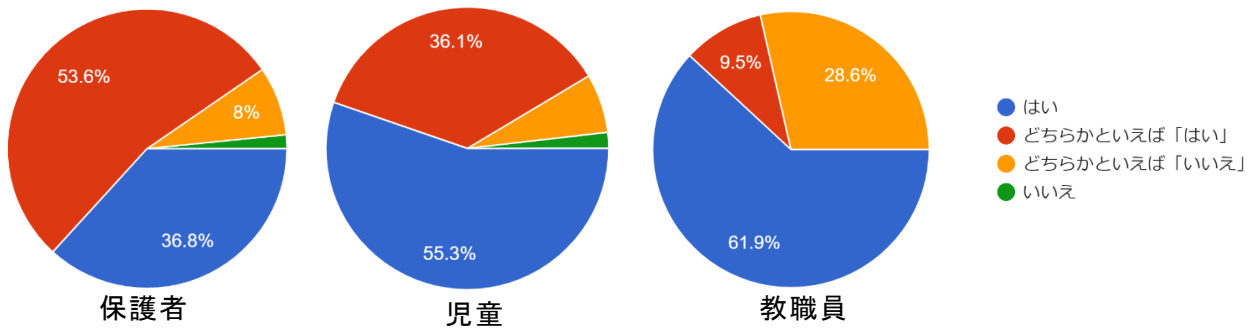


5 お子様は健康や安全を意識して生活することができますか。



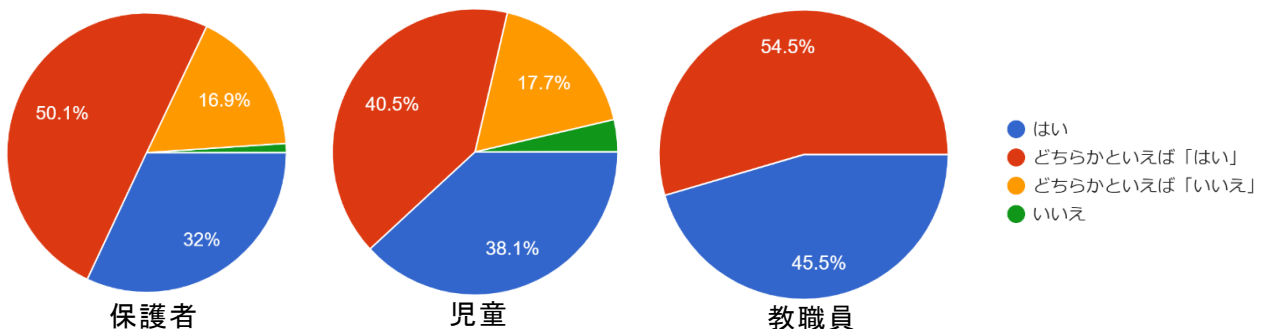
保護者、児童、教職員ともに回答に同じ傾向(9割以上の肯定的な回答)が見られました。コロナ禍の中で、健康に対する意識が高まっていることが分かります。しかし、保護者、児童ともに約1割の否定的な回答がありますので、引き続き健康・安全指導を行っていきます。

6 お子様は相手の気持ちを考えて、話したり行動したりしていますか。



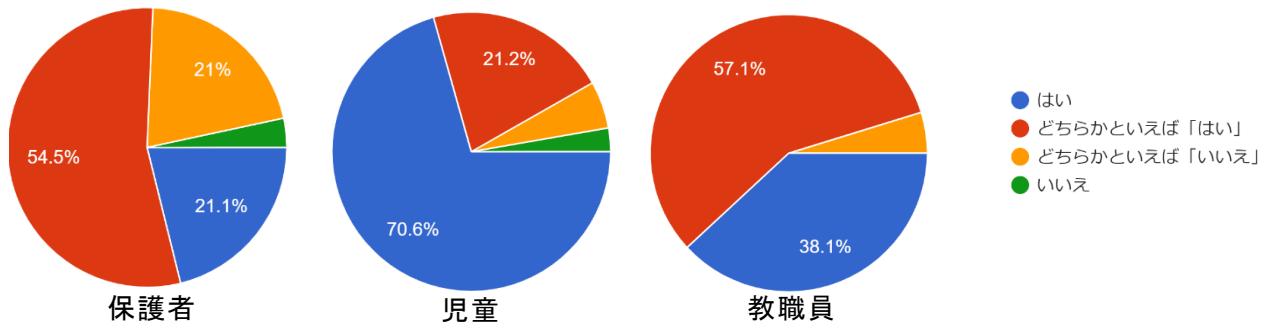
保護者・児童と教職員との認識にずれが、見られます。児童としては、自分はきちんと友達を思いやって行動できていると考えている一方で、教職員は、日頃からの児童同士のトラブルを解決していく中で、まだ相手を思いやる気持ちが十分には高まっていないと感じていると思われます。また、保護者としては、我が子が知らないところで誰かに嫌な思いをさせているのではないかと考えてしまうことで、否定的な意見に繋がっていると思われます。友達同士のトラブルで児童を指導する際には、児童が自分の行ったことが相手を傷つける行動であったことをしっかりと意識させ、「相手のことを考えて話したり行動したりするとは何か」を真剣に児童に考えさせることが大切だと考えます。今後も特別の教科道徳の授業や日頃の生活指導によって、数値の改善を目指していきます。

7 お子様は、進んで挨拶したり、学校や家庭で手伝いをしたりすることができますか。



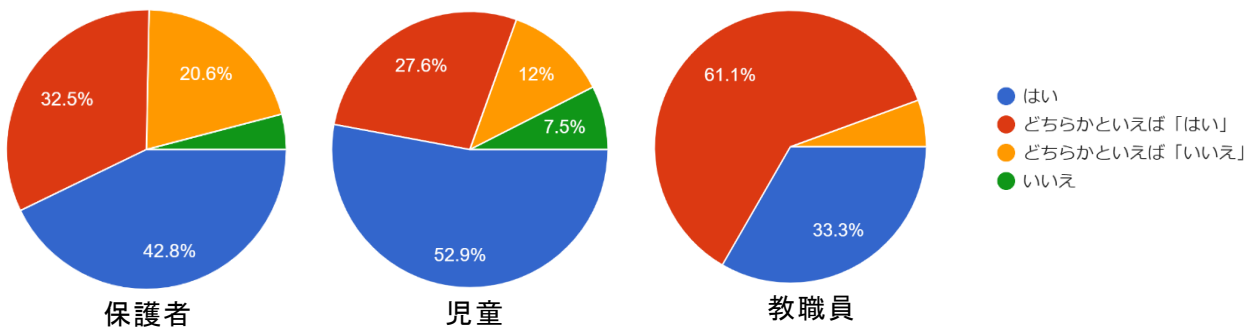
保護者、児童ともに8割以上の肯定的な回答ですが、2割の保護者、児童がやや否定的な回答となっています。コロナ禍により、他人との接触を極力避けようとする風潮の中で、挨拶も含めて、積極的に他者と関わろうとする意識の低下が影響しているものと思われます。学校内では、これまで同様に手伝いを積極的に行う児童の姿をよく見るので、引き続き勤労の大切さを指導していきます。

8 お子様は、災害が起きた時に自分が取るべき行動を理解していますか。



2割以上の保護者が否定的な回答でした。学校では、避難訓練を通じて学校内で命を守る行動について指導を進めています。しかし、保護者としては、学校外で児童が家族と離れて行動している際に災害が起きたら、どのように行動して、どこに集合するのかなど、実際に想定した行動を児童と共有できていないという認識があるのではないかと思います。今後も、具体的な場面を想定した避難訓練を通して、命を守る行動について指導していきます。

9 お子様は、学校での出来事を進んで話しますか。



高学年になるにつれて、学校での出来事を話さなくなるという傾向は一般的にみられることから、この結果は妥当ではないかと思われます。しかし、2割近くの児童が学校での出来事をあまり話さないということは、学校で何かトラブルがあっても保護者に伝わらない可能性があるという見方もできます。今後も保護者の方がトラブルの事実を知ることがないように、積極的に学校側から児童に起きた出来事を伝えていきます。

【学校評議員の方々からのご意見・ご助言】（一部抜粋）

- ・ 2年間も工事が行われている関係で、子どもたちが十分に体を動かす場所がない。指導を工夫し、子どもたちが満足できるような運動量を確保していただきたい。
- ・ 2年生の児童でも自主的に学習を進めることができている。今年の休校の影響で、自分で学ぶ姿勢が身に付いていると感じている。
- ・ 学校評価もスマートフォンやタブレット端末から行うことができ、大変便利だと感じた。
- ・ 児童が下校するときに、車に接触しそうになる場面があった。学校でも指導していただき、交通安全を意識して下校できるようにしてもらいたい。